

## 「日本気象学会岡田賞」について

藤 部 文 昭\*

### 1. はじめに

2年ほど前、廣田理事長(当時)から、1960年ごろに日本気象学会賞と並ぶ存在として「岡田賞」があったことを伺った。現在は、同じ名前の賞が日本海洋学会と日本気象協会によって、それぞれ運営されている。

このほど125周年記念事業で「天気」全巻のpdf化が行われたのを機会に、気象学会岡田賞をめぐる経過や、同名の上記2賞との関係について調べてみた。

### 2. 「岡田賞」の始まり

1957年3月号の「学界消息」に、「本年より毎年2件に岡田武松先生を記念して岡田育英会から、岡田賞が出されることになった。内1件は、気象事業に功労のあった人に、1件は優秀な研究者に出され、後者については、その推せんが日本気象学会に委託されることとなった。」とある(4巻p.96)。このように、岡田賞は事業部門と研究部門の2つの賞として始まった。なお「岡田育英会」とは1943年にできた「財団法人岡田武松先生記念会」のことだと思われる(岡田博士の逝去は1956年9月)。

1957年5月の総会で「岡田賞(気象学会の部)受賞者選定規定」が提案・可決された(4巻p.199-200)。それによると、授賞対象は「気象学に関する調査、著述、教育並びに気象器械および計算図表の発明、改良等により、日本の気象学および気象技術の向上に寄与した者」であった。これ以降、春季大会で学会賞が、秋季大会で気象学会岡田賞が授与されるようになった(学会賞の創設は1954年)。もう一方の、事業部門の岡田賞は気象記念日(6月1日)の式典の際に授与された(当時の「気象」の記事による)。

気象学会岡田賞は、1961年まで5回にわたり以下の方々へ贈られた。

1957年：岸保勘三郎「日本における数値予報の発展と実用化に対する貢献」

1958年：小平信彦「日本における気象レーダーの研究とその実用化」

1959年：藤田哲也「中気象学の研究」

1960年：鈴木清太郎「農業気象学の研究」

1961年：渡辺貫太郎「海水に関する研究」

前記の「学界消息」には、岡田賞が「岡田育英会から出される」ものであり、気象学会には「その推せんが委託されること」と書かれているが、岸保先生への授賞趣旨は、「よって本学会は岸保勘三郎君に第1回日本気象学会岡田賞を贈る次第である。」となっている(5巻p.32)。また、第3回授賞式の記録(6巻p.413)には、理事長から賞が贈呈されたことが書かれている。気象学会岡田賞は、事実上は気象学会による顕彰として運営されていたことが伺える。

### 3. 藤原賞との交代

1960年5月の総会で、藤原賞の創設が決まった。その選考規定については「常任理事会で案を作ること」となった(7巻p.188)。一方、気象学会岡田賞は1961年まで5回続いた後、1962年度は「岡田武松先生記念会の都合により中止」された(9巻p.212)。これ以降、岡田賞に関する記事は「天気」から姿を消し、1963年に藤原賞の運用が始まると、これと学会賞とが気象学会の顕彰として定着していった。

気象学会岡田賞がわずか5回の授賞で終了に至った経緯について、「天気」に記事は見当たらない。しかし、藤原賞の授賞対象は「気象学の応用に関する調査、研究、総会報告、著述等により、日本の気象学および気象技術の向上に寄与した者」となっており(1989年からは「主に気象学の…」となった)、岡田賞の選定規定に似ている。岡田賞の趣旨が、実質的に藤原賞の選考規定へ受け継がれたことが感じられる。

なお「日本気象学会100年史」には、気象学会岡田

\* 気象研究所予報研究部。

© 2007 日本気象学会

賞について「昭和40年にこの事業が日本気象協会に移管され今日に至っている」(29巻 p. 305)とあるが、そういう事実はない。後述のように、気象協会岡田賞の起源は気象学会岡田賞とは別である。

#### 4. 「日本海洋学会岡田賞」の発足

1964年、海洋学会に新たな「岡田賞」ができた。岡田博士は海洋学会の初代会長(1941~1947年)であった。この賞の対象は「36歳未満の海洋学会員で、海洋学において顕著な学術的業績をあげた者」であり、気象学会岡田賞とは異なる。

しかし、「日本海洋学会誌」に「岡田武松先生記念会および気象学会と交渉した結果、今後海洋学会は同上記念会から委嘱を受けて、岡田賞を授与する…」とあり(海洋学会誌20巻, p. 149, 1964)、「岡田賞」の名前が気象学会から海洋学会へ移されたことを伺わせる。前記の「100年史」の記事は、この件を気象協会岡田賞のことと取り違えたのかも知れない。

#### 5. 「日本気象協会岡田賞」の経緯

1957年に始まった岡田賞2部門のうち、事業部門の賞は、1970年代初めまで岡田武松先生記念会の運営のもと、気象記念日に授与が行われた(「気象」の記事による)。記念会は1973年に解散し、日本気象協会が

その事業を引き継いだ。以後この賞は気象協会の岡田記念事業部が運営し、現在では協会本社で授賞式が行われている。「岡田記念事業部規定」によると、気象協会岡田賞は「気象事業功績者および地球物理学に関し、優秀な研究をおこなった者」を対象とし、「気象庁の推薦により、審査の上決定」することとなっている。

#### 6. まとめ

(1) 1957年に岡田武松先生記念会によって2部門の「岡田賞」が創設された。このうち研究部門の賞は「日本気象学会岡田賞」として、1961年までに5人の方へ授与された。

(2) その後、この賞の趣旨は実質的に藤原賞へ受け継がれ、名前は「日本海洋学会岡田賞」へ移った。

(3) 一方、事業部門の岡田賞は「日本気象協会岡田賞」として引き継がれ、現在に至っている。

気象学会岡田賞は短い期間とは言え、日本の気象学を代表する方々に授与された価値の高い賞であり、藤原賞の事実上の前身と見なせる。当時の事情をご存じの方から不足を補って頂き、正確な情報とともにその記録を残していけることを願っている。